

岐阜大学 医学部 医学科

■学校推薦型選抜Ⅱ（共通テストを課す）

▶選抜方法

志望理由書，推薦書，調査書，大学入学共通テストの成績，面接，小論文により，総合判定する。

▶大学入学共通テストの利用教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史	「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」 } から1
公民	
数学	「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ・数学B」
理科	「物理」, 「化学」, 「生物」 から2
外国語	「英語（リスニングを含む）」

[5教科7科目]

(注)

- 「地理歴史」と「公民」において，2科目受験者の取扱いについては，第1解答科目の得点を採用する。
- 「英語」は，「リーディング」と「リスニング」の双方を課す。リーディングを受験し，リスニングを受験しなかった場合は，リスニングの得点は0点となる。ただし，リスニングが免除となる者については，リーディングの得点を「英語」として学部が定める配点に換算する。

▶配点

区分	大学入学共通テスト							調査書	面接	小論文	合計
	国語	地歴・公民	数学Ⅰ・A	数学Ⅱ・B	理科	外国語 (英語：リーディング)	外国語 (英語：リスニング)				
一般推薦	50	50	100	100	200	150	50	—	840	560	2100
地域枠推薦	50	50	100	100	200	150	50	—	420	280	1400

(注)

- 大学入学共通テストの「外国語」における「英語」は、リーディング（100 点満点）とリスニング（100 点満点）であるが、この配点をリーディング 150 点満点、リスニング 50 点満点に換算する。
- 面接においては調査書、推薦書も参考にする。

▶ 合否判定基準

[合格者の決定]

総得点の上位の者から決定する。

ただし、受験の結果が以下のいずれかに該当する場合は、合格の対象としない。

(1) 一般推薦

- a) 大学入学共通テストの総得点 700 点満点中の得点が 82 % 未満の者
- b) 面接・小論文の合計点 1,400 点中の得点が、受験者の最高得点の 60 % 未満の者

(2) 地域枠推薦

- a) 岐阜県コースは、大学入学共通テストの総得点 700 点満点中の得点が 75 % 未満の者
- b) 地域医療コースは、大学入学共通テストの総得点 700 点満点中の得点が 70 % 未満の者
- c) 面接・小論文の合計点 700 点中の得点が、受験者の最高得点の 60 % 未満の者

[同点者の扱い]

項目順に得点の高い者を上位とする。

- (1) 面接の得点
- (2) 面接及び調査書の内容

問題編

●小論文（150 分）

（注） 各大問の（ ）内は、小論文の配点に占める割合を示します。

1 (15%)

以下の文章を読み、問に答えよ。

自分にはどれだけ時間が残されているかを現に知っていたら、今とは違った行動をとるだろうか？知っているせいで、自分にとっていちばん重要なことの実行に注意を向けなおすだろうか？

数年前、死を目前にした学生がいた。本人も自分が死ぬことを知っていた。一年生のときに癌という診断を受けていたのだ。医師は、回復の見込みがないに等しいことを告げ、しかも、あと二年しか生きられないと伝えた。

「さて、残された二年で何をすべきか？」

彼は、自分がしたいのは自身が通っている大学の学位を取ることであると見極めた。そして、死ぬまでに卒業するという目標を立てた。

春休みを迎えたころには具合がかなり悪くなり、医師に学業の継続は無理だと言われていた。医師は事実上、家に帰って死ぬ時が来たと告げたわけだ。彼は自宅に戻り、その後、病状は急速に悪化した。

学期のその時点までの実績に基づいて、どの講座の単位が取れて、どの講座の単位が取れていないのかを、大学で検討された。その結果、彼は十分な成績を収めていたことが分かり、管理部門の職員を一人、死の床に派遣し、彼が死ぬ前に学位を授与した。

これはなんとも感動的で印象的な話だ。自分なら、いったい何をしたいのだろうか？みなさんなら何を選ぶか？あとどれだけ時間が残されているかを知れば、そうした選択を喜んで受け容れて、人生を最も有意義な形で終わられるだろうか？それとも、それは重荷になるのだろうか？

自分に残された時間がどれだけあるかをたいてい知らないという事実について考えたとき、それは、死の悪さを募らせるのか、それとも、それをいくぶん減らしてくれるのか？

出典：シェリー・ケーガン著、柴田裕之訳『「死」とは何か』文響社、2018年より一部改変

問 余命数ヶ月の患者の担当医となった場合、患者に死期を伝えるべきと考えるか、それとも、知らせるべきではないと考えるか。その理由について記せ。(300字以内)

2 (15%)

以下の文章を読み、問に答えよ。

一 医者が医業で生計を立てるのは人のためであって、自分のためではないということとその職業の真の目的とする。安楽な生活を望まず、名利を顧みず、ひたすら自分を捨てて人を救おうと願わなければならない。人の命を保ち病気を治し、患苦を和らげることの外には、何事もあるものではない。

二 患者に向かったらひたすら患者を診なければならない。患者の貴賤貧富を考えてはならない。富者の一握りの黄金と貧者の両眼に宿る感謝の涙とを比較するに、貧者の涙が心に染まるのは、いかばかりであろう。

三 医術を施すにあたっては、患者をもつて的の中心としなければならない。決して弓矢としてはならない。自分の先入観に固執したり、考えもなく治療を試みたりせず、慎重に細大漏らさずよく観察して診断しようと思わなければならない。

四 学術を研鑽する外に、言葉遣いや動作にも注意して患者に信頼されるようにしなくてはならない。しかし、①そのために流行の服装をしたり、根拠のない怪しげな説をふりまわして評判をえようとすることは、たいそう恥ずかしいことである。

(中略)

七 不治の患者でもその病苦を和らげたり、その命を助けたいと願うことは、医者 of 務めである。不治の患者を見放してしまうことは、人道に反したことである。たとえ救うことができなくとも、患者を慰めるのが仁術である。少しの間もその命を長らえようと思わなくてはならない。決してその不治を告げてはならない。言語遣いや態度などすべてに注意して、そのことを患者に悟らせてはならない。

(中略)

十一 ②治療法の相談は集る者が少ない方がよい。多くとも三人を越えてはならない。とくによく人を選ばなければならない。ただ病人の安全を心がけて他のことはいっさい考えず、決して論争してはならない。

出典：橋本義雄著『医学通論』金原出版，1974年より一部改変 (扶氏^(注)医戒之略 緒方洪庵訳 安政3年(1857年)現代語訳)

注：扶氏 Christoph Wilhelm Hufeland (1764-1836) ベルリン大学教授のドイツ人医師。ドイツ語の著書『医学全書』を著した。その巻末にある医戒を緒方洪庵が紹介した。

問1 下線部①について、あなたの考えを記せ。(100字以内)

問2 下線部②について、現在の医学と比較してあなたの考えを記せ。(100字以内)

3 (15%)

以下の文章を読み、問に答えよ。

私は東京大学とスタンフォード大学の両方の研究室で、再生医療に関連した研究を続けている。米国での兼務を始めて7年間、日米の大学や社会の仕組みの違いを通じ、日本の研究発信能力や、国際的な評価の低下について考えさせられてきた。

多民族国家である米国では、国の基本原理である個人の自由と社会における公平性を保証するため、大学で差別を克服する制度が驚くほど真剣に議論され、構築されている。

例えば入試や人事では、人種マイノリティーやハンディキャップを持つ人を普通に優先し、履歴書に生年月日や年齢は書かない。もちろん飲酒や選挙に年齢制限はあり、シニア市民にはいろいろな特典もあるが、入試や就職は能力で選考するという合理的な考えが浸透している。

スタンフォード大学の研究所には、12歳で大学に入学し、16歳で大学院に入り、2年後に同大学の教授になった同僚がいる。能力的には抜群で、年上の大学院生を指導しながら多くの研究費を獲得している。

授業についていけない子供に補習授業があるように、特殊な才能を持つ子供にはその能力に対応した教育が与えられるべきではないか。子供の成育には個人差があり、年齢という枠だけで同じ授業を受けるのは、成育の早い子も遅い子も共に不幸です。日本人の頭にこびりついている年齢という枠を外し、その時点での個人の能力の違いをもっと気楽に素直に認め、見合った教育をすることこそ教育の機会均等だと思う。

一方で、研究所長は82歳の今も、世界最先端の重要な研究成果を発信し続けている。ここでは年齢に関係なく、自分の給与を含む人件費や研究費、研究室の使用料などを研究費から支払わなければならない、研究費を獲得できないと場所も人も大幅に縮小せざるを得ない。年功はほぼ関与しない厳しい世界だが、年齢、性別、人種、学歴に基づかない個人の能力評価こそ、米国の大学が大きな躍進を遂げてきた理由の一つだ。

日本はなぜか非常に年齢にこだわる社会だ。新聞記事やテレビのニュースでは名前と年齢を表記することが慣例となっているし、多くの組織で依然として定年制度が存在する。「老害」が問題視されることもあるが、能力とは無関係に定年まで居座られることは、若い人の進出を阻害していることも確かである。

日本でも最近ではLGBTQ+による差別を無くす努力は始まっている。少子高齢化の先進国である日本は、年齢という差別がもたらす学問的、社会的な損失についても認識し、真剣に

対応することが急務ではないか。

出典：中内啓光著「年齢にこだわる日本」、『朝日新聞』2021年12月14日付け日刊，15頁

問 筆者が主張するような米国の制度を日本で実現した場合に予想されるメリットとデメリットについて記せ。（300字以内）

4 (15%)

以下の文章を読み，問に答えよ。

--ある病棟での会話--

看護師 A「そういえば，緩和ケア病棟担当の C さん，最近見かけないけど，どうしたの？」

看護師 B「実は，メンタルがしんどくなってしまったらしくて，先月からお休みしてるんです。」

看護師 A「そうなんだ…，心根の真っ直ぐな人だったし，緩和ケアの仕事を頑張りたいって言ってたから，本人も残念だろうね。」

看護師 B「患者さんに寄り添いすぎる傾向が，ちょっと強すぎたのかも。患者さんにつられて落ち込んでしまったり，一人の患者さんに付き合っただけでじっくり話を聞くから，他の仕事に手が回らなかつたりして。同じチームの人たちとよく揉めていたみたい。」

思いやりのある人のほうが看護師としてふさわしい。そんなふうを考える人が多いのではないだろうか？思いやりに近い行動経済学の概念に利他性がある。利他性は，他人の喜びを自分の喜びのように感じたり，他人を支援する行為そのものから自分の喜びを見出したりするような性質のことだ。そのような思いやりに近い性質を強く持つ看護師の方が，様々な局面で患者の立場に立って，より親身に看護してくれるはずだ，と考えるのは自然なことだ。（中略）

利他的な人のほうが看護師にふさわしい。本当にそうなのだろうか？著者らの研究グループは，利他的な看護師，特に純粋な利他性という種類の利他性をもつ看護師が実は心理的にバーンアウトしやすいことを，看護師に対して行ったアンケート調査をデータ分析して明らかにした。バーンアウトは，長期間，自分の対処能力を超えるような過度のストレスを受け続けたときに意欲などが減退し，疲れ果ててしまう症状のことを意味する。ある種類の利他性をもつ看護師が本当にバーンアウトしやすいのだとすれば，その結果は「利他的な人のほうが看護師としてふさわしい」という通説に疑問符を投げかけるものだろう。

純粋な利他性は，行動経済学における利他的な特性の一つである。カリフォルニア大学

サンディエゴ校のジェームズ・アンドレオーニは、純粋な利他性、ウォーム・グローという 2 種類の利他性があると説明した。純粋に利他的な人とは、他人の喜びを自分の喜びとして感じ、他人の悲しみを自分の悲しみとして感じるというように、共感特性の強い人のことだ。このタイプの利他性を持つ看護師は、看護行為によって患者の苦しみが和らぐことを通して自分自身の喜びを感じる、と考えられる。一方で、ウォーム・グローを持つ人は、看護行為を行っている自分が好きというように、看護行為そのものから自分自身の喜びを見出す。このタイプの利他性を持つ看護師の喜びは、患者の状態が良くなったり悪くなったりすることから影響を受けにくい、と考えられる。(中略) さらに、純粋に利他的な看護師はいずれの利他性も持たない看護師に比べ、睡眠薬や精神安定剤・抗うつ剤を常用している可能性が高い、という結果を発見して著者らは驚いた。一方で、頭痛薬や胃腸薬の常用との間には特別な関係は見つからなかった。情緒的に消耗することで、精神的に不安定になったり、うつ症状を引き起こしたりして、睡眠薬や精神安定剤・抗うつ剤の常用につながっていくのではないかと解釈している。

出典：大竹文雄・平井啓編著『医療現場の行動経済学 すれ違う医者と患者』東洋経済新報社、2018 年より一部改変

問 良い医師の資質として利他性は必要と思うか、理由を含めて記せ。(200 字以内)

5 (20%)

以下の文章を読み、問に答えよ。

これまで長いこと、私たちの社会では「問題を解決できる人＝プロブレムソルバー」が高く評価されてきました。原始時代以来、私たちの社会は常に多くの「不満」「不安」「不便」という「問題」に苛まれており、これを解決することが大きな富の創出につながったからです。「寒い冬を凍えることなくすごしたい？」ストーブをどうぞ！「雨に濡れずに安楽に遠くまで移動したい？」自動車をどうぞ！ということです。

しかし今後、このような「問題解決に長けた人」はオールドタイプとして急速にその価値を失っていくことになるでしょう。

ビジネスは基本的に「問題の発見」と「問題の解消」を組み合わせることによって富を生み出しています。過去の社会において「問題」がたくさんあったということは、ビジネスの規模を規定するボトルネックは「問題の解消」にあったということです。だからこそ 20 世紀後半の数十年間という長いあいだ「問題を解ける人」「正解をだせる人」は労働市場で高く評価され、高水準の報酬を得ることが可能でした。

しかしこのボトルネックの関係は、今日では逆転しつつあります。つまり「問題が希少」

で「解決能力が過剰」になっているということです。

たとえば2018年の10月、ウォール・ストリート・ジャーナルはアメリカにおけるMBAへの応募数が、4年連続で前年割れしていることを報じました。同紙によれば、ハーバードやスタンフォードなどのエリート校も含めて応募数は減少傾向にあり「Degree loses luster＝学位としての輝きは失われた」というのです。一体何が起きているのでしょうか？

言うまでもなく、経営大学院という学校は、経営における問題を「解決」するための技術や知識を体系的に学ぶ場所です。しかし、正解がコモディティ化^(註)していく世界において「正解を出す能力」が高く評価されることはありません。

なぜなら、仮にある個人や組織が「正解」を出すことができたとしても、その「正解」は他の個人や組織が出すものと変わらないからです。経営というのは本質的に差別化を求めますから、たとえそれが論理的な「正解」であったとしても、経営の文脈ではそれは「良い答え」ではないのです。

MBAという学位を保有している人が相対的に希少で、市場に多くの不満・不安・不便といった問題が山積していた20世紀の後半であれば、MBAホルダーは労働市場で高く評価され、高額報酬を得ることができたでしょう。

そのような状況を見た人々がMBAという学位の経済的価値を認め、ビジネススクールの門をたたくことでMBAホルダーの数は中長期的には増加したわけですが、その結果として、ビジネスにおける問題解決の能力は現在、供給過剰の状態に陥りつつあります。

財の価値は需要と供給のバランスで決まることになります。問題が希少化する世界で、問題解決の能力が過剰に供給されれば、「問題解決の能力」の価値が減少するのは当たり前のことです。このような時代になりつつある中、いまだに「正解を出す能力」にこだわり続けるオールドタイプは、急速に価値を失っていくことになるでしょう。

この「問題解決能力の過剰供給」という問題に追い討ちをかけることになるのが人工知能の普及です。

2011年、IBMの人工知能「ワトソン」が、米国の人気テレビ番組「ジェパディ！」に出演し、百戦錬磨のクイズ王と争って勝利しました。クイズ番組で求められるのはまさに「正解を出す能力」ですから、すでに人工知能の「正解を出す能力」は特定の領域においては最高水準の人間の知性をも凌駕しているということです。

このような指摘に対して「ワトソンは非常に高価であり、費用対効果という点では人間に劣る」という反論があるかもしれませんが。なるほど確かに「コスト」は重要なポイントです。1965年に発表されたNASAの報告書には、宇宙船になぜ人間を乗せるのか、という批判への反論として「人間は非線形処理のできる最も安価な汎用コンピューターシステムであり、しかも重量は70キロ程度しかなく、非常に軽い」と記述しています。

つまり「軽くて安くて性能がいい」という理由で、コンピュータよりも人間を宇宙船に乗せるという回答なのですが、このNASAの主張をひっくり返せば、つまり「軽くて安くて性能がいい」という理由であれば、別に人間であろうと人工知能であろうと、どちらでも構わないということでもあります。そして、今まさにやってきつつあるのが「人間より人工知能の方が安くて性能がいい」という時代です。

1997年にチェスの世界チャンピオンに勝利したIBMの「ディープブルー」は、その翌年、5倍程度に処理能力を増強されて一般に販売されました。このときの販売価格はおよそ100万ドル=1億円程度でしたが、今日、量販店で販売されている家庭用パソコンでもメモリーやハードディスクを増強すれば同程度の計算能力を持たせることができます。

人間を雇うよりもはるかに安い費用で、最高峰の人間の「問題解決能力」と同等以上の能力が手に入るのです。しかも、この頭脳は1日24時間のあいだ働き続けることができ、動機づけに昇進させてやる必要もなく、有給休暇をもとめてくることもありません。

このような状況が実現すれば、「正解を出す能力」は極端な過剰供給状態となり、人間の持っている「正解を出す能力」にはほとんど価値が認められなくなります。このような時代にあっても、いまだに偏差値に代表されるような「正解を出す能力」にこだわるのは典型的なオールドタイプの思考様式と言えます。

出典：山口周著『ニュータイプの時代——新時代を生き抜く24の思考・行動様式』ダイヤモンド社、2019年より一部改変

(注) コモディティ化とは、市場投入時には高付加価値の製品やサービスと認識されていたものが、市場の活性化により、他社が参入し、ユーザーにとって機能や品質などで差がなくなってしまうこと。

問 ビジネス分野のみならず、医療の分野においてもAIの普及が医師の価値や役割を変革することが予測される。AI時代の医師に求められる役割について、これまで医師が担ってきた役割と対比しながら、あなたの考えを記せ。(300字以内)

6 (20%)

以下の文章を読み、問に答えよ。

相談 (20代の女性会社員)

社会人になったら突然、「学費の返済として毎月 10 万円ずつ払って」と母から告げられました。学生時代には学費返済について何も言われなかったので戸惑いましたが、言われた額を家に入れてあります。給料が上がらず、やりくりが大変で減額や延期を相談しても母は聞く耳を持ちません。

学費を返済する目的を聞いても、私の将来のためだったり両親のためだったり聞く度に理由が違います。私の将来のためだとしても、自分で稼いだお金のことは自分で決めたいのに母が勝手に決めるので、家に帰るのがゆううつです。一人暮らしを考えていますが、母は、「返済を終えるまで認めない」と言います。

ダメだとわかっているけど母を殺そうか、自分自身が消えたほうがいいのか、今日まで考えてきました。このような問題にどう対処したらいいのでしょうか。

回答 (ライター的最相葉月氏)

社会人になっても実家で暮らしている場合、家賃や食費代わりに給料の一部を家に入れるのは当たり前のことでしょう。多くの親はその一部であっても黙って貯金し、結婚や起業など、わが子が必要な時に渡してくれるものです。

あなたの母親は様子が違う。学生時代にそんな約束などなかったのに突然、学費の返済を要求してきた。親がわが子の学費を払うのは一般的に贈与とみなされるため、原則として返済義務はないはずですが。

それなのになぜお母様はそんな要求を突きつけるのか。私は手紙の最後にある、母を殺そうか自分自身が消えるか、という文言にヒントが隠されていると思えてなりません。トラブルのきっかけはお金ですが、2人のあいだにはもっと深刻な断絶があるはずですが。

この問題にどう対処すればよいかというご相談には返済義務なしとお答えするだけです。しかしそれがあなたの望む根本的な回答なのか。母親はなぜお金と引き換えにあなたをつなぎ留めようとしているのか。

語り尽くせぬ確執であったとしても、言葉にしなければ第三者には伝わりません。幸いにして本欄は匿名です。何が聞きたいのかゆっくり考えて、もう一度相談してみてください。

出典：「人生案内」、『読売新聞』2021年12月1日付け朝刊、21頁より一部改変

問1 母親の問題点は何か記せ。(40字以内)

問2 あなたは回答者として、上記の回答以外の回答を考え記せ。(40字以内)